

学年通信

三滝中学校第1学年 2021.10.15 No.21

ちがいのちがい

月曜日の総合の時間、「ちがいのちがい」を学習しました。以下のような8つの“ちがい”を例示し、それらが“あっていいちがい”、“あると危険な(心配な)ちがい”、または“どちらとも言えない”なのかを考えました。

- (ア) Iさんはこわい先生の言うことはよく聞か、こわくない先生の言うことは聞かない。
- (イ) Mさんはニンジンが嫌いだ、Kさんは何でも食べる。
- (ウ) Tさんは中学卒業後ガソリンスタンドで働いているが、Yさんは高校へ進学した。
- (エ) Nさんはどこへでも旅行できるが、車いすに乗っているHさんは一人で電車に乗ることができない。

- (オ) 女性は16歳で結婚できるが、男性は18歳にならないと結婚できない。
- (カ) 日本では食事の時にハシを使うが、インドでは指を使う。
- (キ) A中学校の出席番号はすべて男子が先で、女子が後になっている。
- (ク) 新体力テストで男子は1500mを走り、女子は1000mを走る。

みんなの書いた授業の振り返りを紹介します。

(ア) のところでは、仲の良い人の話は聞くけど、苦手な人の話は無視することと同じだなと思いました。

世の中にはいろんなちがいがあるけど、あってはいけないちがいとあっていいちがいがあることがわかった。自分もあってはいけないちがいと気づかずにしていたかもしれないので「ちがい」の意味を深く考えようと思うきっかけになった。

ちがいがあると、いろんな人の自分と違う意見がわかるから面白かった。ちがいがあると差別が生まれてしまうということがわかった。ただ、(オ)のように解消されていくことがあるので少しずつ色んな差別は少なくなるかなと思った。

自分がこう思えば相手が違うことを思うのは、だめなことじゃなくて、知らないことを知っていいことだなと思った。また、違うところを否定するのではなくて、認め合って、何ならほめあうことが大切だなと思った。

この世にはちがいがたくさんある。その中には、あっていいちがいとあってはいけないちがいがある。あっていいちがいの中には、好き嫌いや自分の進む道がある。それは自由に選ぶことができるため、あっていいちがいだ。あってはいけないちがいは、差別につながるちがいに当たる。このことが今日の授業でわかった。

人によって考え方がちがうんだなと実感しました。人の考えをまっこうから否定せず、理解することも大切だと思いました。あると危険なちがいのカギとなる「差別」ですが、人によって考えがちがうので自分が差別していないつもりでも他の人から見ると差別になっていることもあるかもしれないと思いました。

(ウ) や (エ) を改善するためには、その人が変わるのではなくて、社会全体の環境を変えていくのが大切なんだなと思った。

人それぞれ意見も違うし、いろんな考え方があるから、あらそいができるかもしれないけど、それで差別するのではなく、いろんな人の考えを理解するのも大切だなと思いました。みんな、自由に自分の好きなように生きていけるように周りが変わっていく必要があるんだと思いました。

それぞれでまったくちがう考えを持っていたり、理由がまったくちがったりして、「ああ、なるほど」とか「たしかにそうだな」など、気づかされることがたくさんあった。意見がおたがいで違うからこそ、共有しあったり、討論しあったりするのがいいのかなと思った。

授業では、「いろいろのちがい（多様性）を受け入れ、一方でそのちがいによって不平等が生じ、それが差別につながりかねない」ということを学びました。先週のワクチン接種、そして今回の「ちがい」の学習を通して、自分の中にある思い込み、決めつけのようなものに気づいた人はいたでしょうか？例えば、「ワクチンは接種するのが当たり前」、「ちがいがあるって当然、またはそのちがいはあかんやろ」のように。誰もが無意識のうちに自分の見方や考え方が固まってしまっている可能性があるかもしれません。

来週の月曜日に人権講演会があります。そこでは、「差別はなぜ起こるのか？」、また「差別をなくす行動とは、具体的にはどういうことなのか？」。そのようなことを講演の中で話してもらいます。2回の授業で「差別」について、考えられた人もいたと思います。もう一度自分の頭の中を整理して、月曜日を迎えてもらえたら、と思っています。